

シカ・イノシシ・アライグマの生息状況

環境研究部 みどり環境グループ

■ 調査研究の概要

農林被害額の大きい3獣種(シカ、イノシシ、アライグマ)に対する被害対策の効果検証を目的に、その生息分布と経年変化などを調査した。

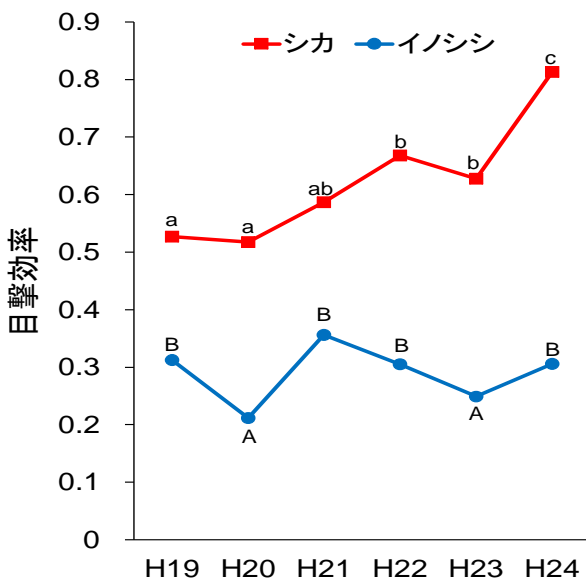
■ 調査研究の特徴

現地調査、狩猟者や農業者へのアンケート調査、捕獲個体調査などを総合的に解析した。

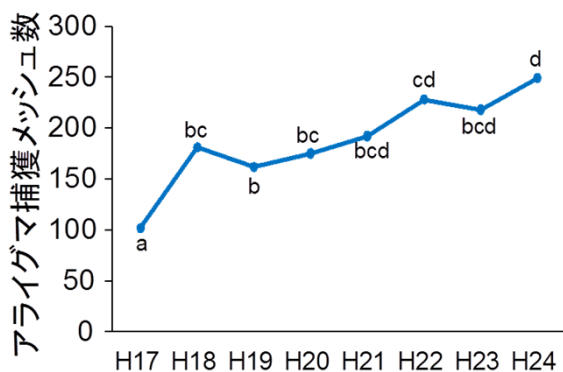
■ 活用できる分野

効果的な鳥獣害対策の立案
生物多様性の保全に向けた計画立案

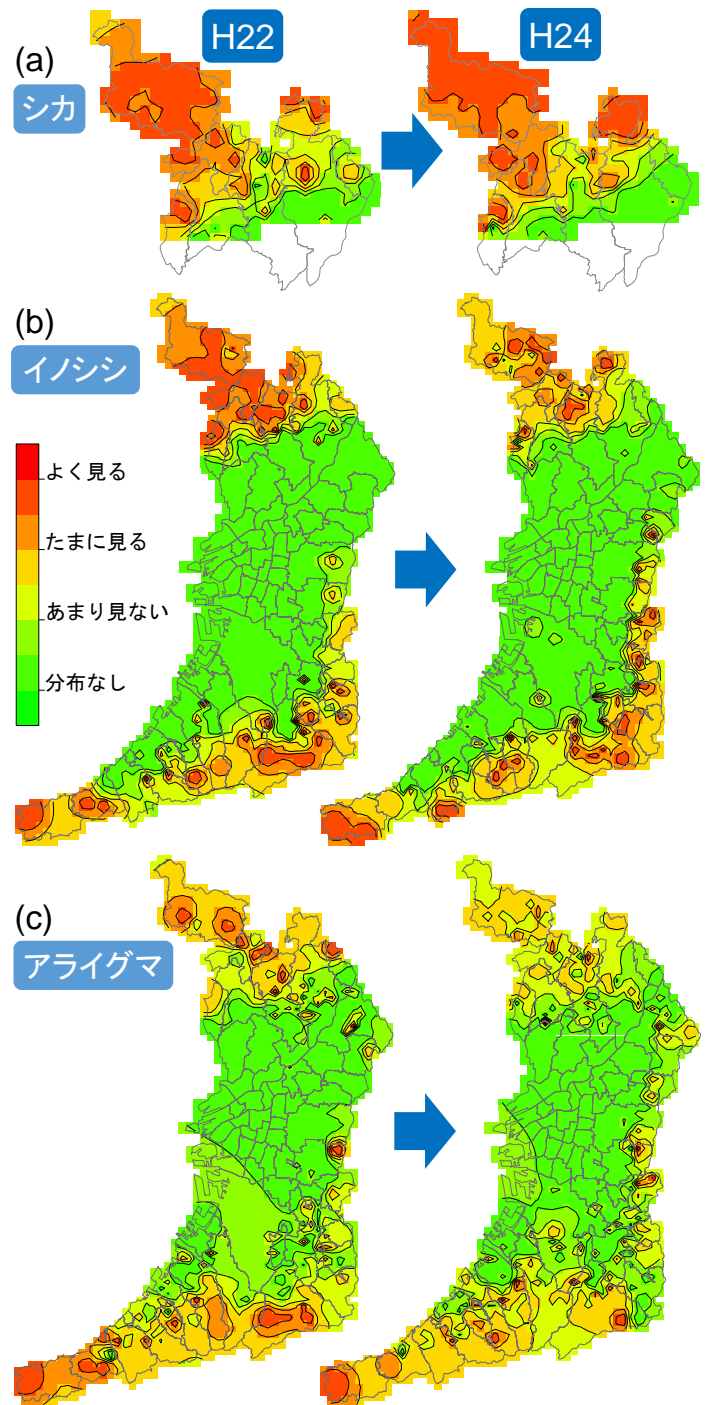
■ 調査研究の内容 (結果の一部)



第1図 銃猟狩猟者によるシカとイノシシの目撃効率^{※1}の変化(異文字間に有意差あり)
^{※1}: 狩猟者1人が1日あたりに目撃した頭数



第2図 わなによるアライグマ捕獲メッシュ数^{※2}の変化(異文字間に有意差あり)
^{※2}: 3次メッシュ(約1km²)ごとに集計



第3図 農業者へのアンケート調査による(a)シカ、(b)イノシシ、(c)アライグマの生息分布^{※3}とその変化
^{※3}: 各調査地のアンケート結果から出没頻度を逆距離加重法により空間補間して作成

シカ・イノシシ・アライグマの生息状況

○幸田良介（環境研究部）

1. 目的

近年、大阪府内ではシカ、イノシシ及びアライグマによる農林産物等への被害が増加している。このため大阪府は、シカとイノシシには鳥獣保護法に基づく保護管理計画を、アライグマには外来生物法に基づく防除実施計画を策定し対策を進めている。

これらの計画策定や進捗状況の点検・見直しに必要な科学的資料を提供するため本調査を実施している。

2. 方法

以下の(1)～(6)の調査結果により、府内におけるシカ、イノシシ及びアライグマの生息状況を解析した。

(1) 捕獲目撃情報調査

狩猟者から出猟記録を回収し、シカとイノシシの生息数の指標となる目撃効率と捕獲効率を算出した。

(2) シカ糞調査

府北部地域の29地点において、糞塊法と糞粒法により、シカ生息数の指標となるシカ糞密度を算出した。

(3) 森林植生被害調査

府北部地域の53地点において、下層植性の植被率からシカの摂食による植生の衰退度を算出した。

(4) 農業被害調査

府内約1,200か所の農業実行組合に対しアンケートを実施し、野生鳥獣による被害状況、加害動物の出没頻度、対策の実施状況などを集計した。

(5) アライグマ捕獲情報調査

アライグマ捕獲処分時の記録（捕獲場所、体重、体長、性別、妊娠の有無、推定産仔数など）を集計した。

(6) 効果的防除方法調査

農業被害調査等からモデルケースを3地区抽出し、現地調査により獣害対策の効果を検証した。

3. 結果および考察

(1) シカの生息状況

目撃効率や出没頻度等から、生息域は北部地域に限られているが、生息数は増加傾向であることがわかった。また、被害も増加傾向にあり、対策の継続が必要であると考えられた。

(2) イノシシの生息状況

目撃効率はほぼ横ばいで、生息数に増加傾向はみられなかったが、分布域や被害の変化は地域によってやや異なっていた。中東部地域では分布域は拡大傾向にあり、被害は増加していた。一方、対策により被害が減少している地域もあった。

(3) アライグマの生息状況

分布域は拡大し続けており、特に近年は中東部地域での拡大が顕著であった。また、捕獲個体の平均体重が減少してきていることや、妊娠率・産仔数が増加傾向にあることが分かった。このことから、アライグマ個体群構成に変化が生じてきていることが推察され、今後の注意が必要であると考えられた。